

わが国の図書館・情報学教育で  
使用されている教科書および参考書

Required and Optional Textbooks Used in Education  
for Library and Information Science in Japan

津 田 良 成  
*Yoshinari Tsuda*

*Résumé*

To identify textbooks currently used for the courses of library and information science education in Japan, questionnaires were sent to 365 full-time teachers in the field selected from 769 teachers listed in the *Directory of the Educators in Library Science* (1974).

Responses were received from 124 of them (34.1% of the teachers queried). Of these, 89 were using 147 textbooks, including 28 American or British titles and 5 translated editions of American titles. Fourteen of these 28 were found listed in the *Library and Information Science Textbooks-In-Use: A Master Checklist*, compiled by K. Hsu and V. P. Diodato. One in the rest of 14 was also found in two lists of information science textbooks, compiled by Jack Belzer and his colleagues in 1971 and 1975. Another one was in the *Bowker Annual's* lists of "Basic publications for librarians". Five of them were very recent publications and not listed in any of them.

Examination of 114 Japanese titles revealed the following facts; (1) as many as 25 books reported (29.9%) were the publications by the Japan Library Association, (2) there were 36 titles (31.6%) which were of some series publications, (3) 52 titles (45.6%) were textbooks which were written by the teachers for their own courses, and 42 of these were being used only by the author himself, (4) the most popular textbook was a general textbook covering all aspects of library science which was compiled to serve in short training courses for teacher librarians.

These findings led to the following suggestions and conclusions:

1. It is advisable to promote utilization of textbooks which were prepared by other teachers for their own courses.
2. Some more textbooks are needed in newer subject fields such as information science and systems management.
3. More foreign textbooks of good quality should be used in education for library and information science in Japan.

津田良成：慶應義塾大学文学部図書館・情報学科教授

Yoshinari Tsuda, Professor, School of Library and Information Science, Keio University.

4. More foreign textbooks of good quality should be translated into Japanese.
5. Other textbooks should be used along with the present popular ones in training for teacher librarians.

#### はじめに

##### I. 図書館・情報学分野の図書リスト

##### II. わが国の図書館・情報学分野の教育に使用されている教科書の調査

##### III. 結 論

附録：わが国の図書館・情報学教育で使用されている教科書および参考書のリスト

#### はじめに

Charles C. Williamson 博士がカーネギー財団のために1921年と1923年にまとめた *Training for Library Work* と *Training for Library Service* の二つの報告書が、アメリカにおける図書館学教育の基礎を築きあげる段階で大きな影響力を持ったことは有名である。その報告書の中で彼は、当時、大学における図書館学教育の体制確立に大きな障害となっている点の一つが、適当な教科書やハンドブック類の欠如であることを指摘している。そして、それら教科書類が十分に作られない理由として、この分野の教育に携っている人達の仕事の負担が重すぎ、忙しいスケジュールに追われているために教科書を書く時間がないことと、折角書いても、それを使ってくれる人が少なすぎて、書く労力の大きさに比べて、経済的な見返りが余りにも少なすぎるものの二つをあげている。同時に彼は、必要とされているような本が一旦書かれてしまえば、図書館協会が費用を出して出版しても十分にその費用を取り戻すだけの売り上げがあるであろうという意見を述べ、カーネギー財団に対して、図書館学校の教員が一年間休暇をとって教科書の執筆に全力をあげることが出来るだけの費用を出すようにと勧告している。<sup>1)</sup>

わが国においても、図書館学の適当な教科書の数の少

なさが長らく図書館学教育者達を苦しめてき、多くの諸先輩が、自分の教えている課目で使用するための教科書をプリント刷りにしたり、出版したりする努力を続けてきた。

しかし、最近では、国外、国内共にこの分野の出版物は急増し、今では逆に教育担当者でも、どのような教科書がどのくらい出版されているのかという実情を掴むことがむずかしくなってきた。そこで現在どのような教科書が実際にわが国の図書館学や、情報学分野の教育者達によって使用されているかという実態を掴んでみる必要が感じられた。

出版年鑑の1971年版以降に収録されている図書館関係の図書<sup>2)</sup>の出版点数を、総記の01図書館、および02図書・書誌学の二項目のみについて数えてみると、第1表のとおりである。(第1表参照)

大体において、両項目を併せても、年に80冊から120冊の程度で余り増減の傾向は示していない。しかし、アメリカの図書館・情報学関係出版物の出版量は非常に多く、*Library Quarterly* 誌に書評の載つたものだけでも、1974年から1976年の3年間に277冊に達している。

##### I. 図書館・情報学分野の図書リスト

日本の図書館関係文献の書誌については、Adrian

第1表 出版年鑑に収録された図書館学関係図書の点数

	71 年 版	72 年 版	73 年 版	74 年 版	75 年 版	76 年 版	77 年 版
図 書 館	51 (6)	45 (6)	40 (5)	27	20	39	44
図書・書誌学	80 (3)	69	72 (1)	67	56	62	62

注：( ) 内の数字は含まれている重複版の点数を示す。

Jones が *Library Quarterly* 誌に丁寧な紹介記事<sup>3)</sup>を書いている。その中でも強調しているように、この分野の成果は天野敬太郎氏等の活躍によるところが大きい。彼の多くの業績の一つに「図書館界」(1969)に載せられた“1968年未までに出版された図書館学関係文献の書誌の書誌<sup>4)</sup>があるが、その中で彼は429タイトルを紹介している。内容は、図書、図書中の記事、雑誌記事、新聞記事などの形で発表されている図書館学の書誌429タイトルを図書館学書誌、図書館学一般：図書、図書館学一般：雑誌、図書館刊行書、等々のAからWまでの23のカテゴリーに分けてリストしたものであるが、その対象主題から“ドキュメンテーション”、“読書”、“読書指導”、“書誌学”を除いている。その他にも図書館学関係文献のリストは存在する。しかし、わが国には図書館情報学分野の教育機関で使用されているか、又は使用されるべきと思われる教科書のリストというものは未だ存在していない。

アメリカにおいては、図書館学関係の図書や、書誌類の出版で知られた Bowker 社の年間出版物 *Bowker Annual of Library and Book Trade Information* が“Basic Publications for Librarians<sup>5)</sup>”という題名のもとに毎年約200タイトル前後の、図書館員に推薦できるとされる図書のリストを載せている。このリストは1977年には20のカテゴリーに分けて228タイトルをリストしている。リストは年刊ではあるが、別に前年の出版物のみを対象にしている訳ではなく、その時点で最善と思われる図書館学分野の図書をリストしているので、従って出版年の古い図書も含まれており、又、前年から引き続きリストに含まれている図書も多い。1977年版を例にとると、リストされた228タイトルの出版年は次の表のとおりである。(第2表参照)

やはり1977年版には、1977年の出版の図書は未だ例外的なものしか含まれていないが、前年(1976)および前々年(1975)の出版物が一番多く、1974年から1977年ま

での4年間に出版されたものの合計は、全タイトルの過半数を超える56.6%に達していた、しかし、その反面、1冊ずつではあるが、1957, '56, '55, '54, '53年のそれぞれに出版された図書も含まれている。

又、1977年にリストされていたタイトルの中、1976年版にも収録されていたものは175冊(76.8%)もあり、1975年版にもリストされていたものでも131冊(57.5%)あり、更に5年前の1972年版のリストに載っていたものでも64冊(28.1%)存在した。もっとも、それらのタイトル中には *American Library Directory*, *Annual Review of Information Science and Technology*, *American Reference Books Annual* などのような年刊の出版物も多く含まれている。しかし、その一方では次の表(第3表)に示すとおり、リスト中で使用されている主題のカテゴリーも、又、それぞれのカテゴリー中に含まれている図書の数も、時代の変化を反映して絶えず変化している。(第3表参照)

リスト中のカテゴリーの中に、“Automation and Information Retrieval”という項目があるが、そこであげられている図書はわずかに9冊(3.9%)で、このリストが情報学関係の図書をほとんど対象として取り扱っていないことが明らかである。なおこのリストの欠点の一つとして考えられる点は、リスト中の図書の10%が Bowker 社出版の図書であり、幾分その選択の基準に疑問が持たれる点である。

情報学関係の教科書のリストとしては、先ずアメリカの情報学会(American Society for Information Science)の情報学教育分科会の中につくられた Jack Belzer らを中心とするカリキュラム委員会が、1968年以來行ってきた情報学のカリキュラムの調査時に、回答のあった45校の185科目で、使用されていた教科書87タイトルをリストにしたものがあげられる。<sup>6)</sup>この時使用の多かった教科書は、

第2表 *Bowker Annual*...の“Basic Publications for Librarians”リスト(1977年版)に載せられた図書の出版年別タイトル数

出 版 年	'77	'76	'75	'74	'73	'72	'71	'70	'69	'68	'67	'66	'65
タ イ ト ル 数	6*	45	48	50	20	23	19	8	11	4	1	3	5
出 版 年	'64	'63	'62	'61	'60	'59	'58	'57	'56	'55	'54	'53	'52
タ イ ト ル 数	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1	0

\* 隔年とのみ表示してあるものと出版予定などを含めた数

わが国の図書館・情報学教育で使用されている教科書および参考書

第3表 *Bowker Annual...*の“Basic Publications for Librarians”に  
リストされている図書館・情報学関係図書の主題別冊数

	'72	'73	'74	'75	'76	'77
General Work	11	6	11	16	15	21
Administration	20	7	6	—	—	—
Automation and Information Retrieval	7	10	15	8	7	9
Buildings, Furniture, Equipment	16	7	14	10	13	13
Children's and Young Adults' Services and Materials	23	14	19	19	22	25
College and University Libraries	7	—	12	9	11	14
Education for Librarianship	10	4	9	9	9	9
Handicapped, Library Service for	6	—	—	—	—	—
Intellectual Freedom	13	10	11	1	1	1
Interlibrary Loan	2	—	—	—	—	—
Library History	1	1	2	—	—	—
Library Legislation	1	1	—	—	—	—
Materials Selection	7	5	5	8	7	7
Periodicals and Serials	11	4	11	10	11	11
Public Libraries	13	3	15	13	15	10
Reference Aids and Services	17	16	13	10	14	17
Research	—	—	—	5	6	8
School Libraries	20	13	17	12	14	17
Services for Special Groups	—	5	9	9	7	10
Special Libraries	6	5	10	6	8	10
State Libraries	—	—	2	2	4	6
Statistics	1	—	2	—	—	—
Technical Services	15	7	16	11	11	8
Technical Services: Acquisitions	2	3	5	4	3	3
Technical Services: Care and Restoration of Materials	—	—	—	—	—	6
Technical Services: Cataloging and Classification	12	9	17	18	20	17
TOTAL	221	130	222	180	198	228
Periodicals	21	22	28	28	31	33

Artandi, Susan: *An Introduction to Computer in Information Science*. Metuchen, N. J., Scarecrow Press, 1972.

Hayes, R. M. and Becker, J.: *Handbook of Data Processing for Libraries*. New York, John Wiley, 1970.

Bourne, Charles P.: *Methods of Information Handling*. New York, John Wiley, 1963

Klir, Jand and Valach, M.: *Cybernetic Modeling*: English tr. ed by W. A. Ainsworth. Princeton, N. J., Van Nostland, 1968.

Kent, Allen *Textbook on Mechanized Information*

*Retrieval*. New York, Interscience Publishers, 1966.

Becker, J. and Hayes, R. M.: *Information Storage and Retrieval: Tools, Element, Theories*. New York, John Wiley, 1963.

などであった。

1968年の調査に続いて1972年に行われた調査<sup>7)</sup>では、回答票にあげられていた教科書の種類は206タイトルに増えている。この調査時点で多く使用されていた教科書としては、

Hayes, R., and Becker, J.: *Handbook of Data Processing for Libraries*. New York, John Wiley,

1970.

Artandi, S.: *An Introduction to Computer in Information Science* (2nd ed.) Metuchen, N. J., Scarecrow Press, 1972.

Salton, G.: *Automatic Information Organization and Retrieval*, New York, McGraw-Hill, 1968.

Hopcroft, J. E. and Ullman, J. D.: *Formal Languages and the Relation to Automata*, Reading, M. A., Addison-Wesley, 1969.

Knuth, D. E.: *Art of Computer Programming*, Vol. 1. Fundamental Algorithms. Reading, M. A., Addison-Wesley, 1968.

Lancaster, F. W.: *Information Retrieval Systems*. New York, John Wiley, 1968.

McCracken, D. D. and Garbassi, U.: *A Guide to COBOL Programming*, 2d ed. New York, John Wiley, 1970.

Griswald, R. et al.: *The SNOBOL-Four Programming Language*. 2d. ed. Englewood Cliffs, N. J., Prentice-Hall, 1971.

Bell, C. G. and Newell, A.: *Computer Structures, Reading and Examples*. New York, McGraw-Hill, 1971.

Chapman, E. A.: *Library Systems Analysis Guidelines*. New York, John Wiley, (n. d.)

Foskett, A. C.: *The Subject Approach to Information*. 2d ed. Hamden, C. N., Shoestring Press, 1971.

Gries, D.: *Compiler Construction for Digital Computing*. New York, John Wiley, 1971.

などがあげられているが、特に Hayes and Becker の教科書は、他のどの教科書よりも2倍以上多い19の科目で使用されていた。なお、この委員会の二つのリストにあげられたそれぞれ87と203のタイトル中、23タイトルは同じ教科書又はその改版であった。

図書館学と情報学の両分野の教科書を含んだリストとしては、Hsu と Diodato の *Library and Information Science Textbooks-in-use: A Master Checklist* (Jan. 1976)<sup>8)</sup> がある。アメリカ図書館学校協会 (American Association of Library Schools) のメンバーである北米の42の図書館学校を対象に、図書館学および情報学の教育科目で、1974—75年度に使用されていた必修教科書 (Required textbooks) と選択教科書 (Optional

textbooks) がどんなものであるかを明らかにすることと、図書館学教育における書誌調整のための効果的な道具を提供する、という二つの目的のために調査を行った。その結果、572タイトル (文献番号は573番まで振られているが、274番が no entry となって削られている。) がリストされている。

このリストでは、教科書としての選択基準に、アメリカ教科書出版協会 (the American Textbook Publication Institute) の定めた「学問のある一つの定まった分野を取扱い、組織だった配列がなされ、特定の教育レベルでの使用を考え、先ず第1には特定のコースでの学生および教師の使用のために作られているが、同時に個人個人の勉強にも有用な図書」という基準を当てはめているとしている。収録対象としては選択教科書までは含めているが、教育過程で学生に宿題として読ませる参考書や指定書の類は含まれていない。配列は著者名のアルファベット順で、回答した42校の住所と、リスト中の教科書の書名のキーワード索引が附加されている。なおこのリストは2年毎に改編される予定である。

このリストの中の教科書中、10コース以上で使用されているものを使用コースの多い順にあげると、次の表のとおりである。(第4表参照)

この10コース以上で使用されていた教科書類の中には *Anglo-American Cataloging Rules* や Winchell の *Guide to Reference Books* (Sheehy 9th. ed. 1976), *ALA Rules for Filing Catalog Cards*, *Sears List of Subject Headings* などのような、いわゆる図書館員にとっての道具類のようなものが多いが目立つ。そして目録分類関係、レファレンス関係、児童文学・児童図書館、ノンブック・メディア関係、図書選択関係のもので占められ、その他は全般的なライブラリアンシップに関するものと、図書館研究に関するものが辛うじて16位と17位に入っている程度であった。システム管理、図書館の機械化、情報検索などの分野のものは、新しい分野のため、教科書として十分に確立されたものも少ないのかも知れないが、図書館運営とか図書・図書館史といったような、従来からの分野の教科書が利用の多いもののリストの中に含まれていないのはどういう訳であろうか。もっともこのリストを更に7コース以上で利用されている教科書にまで広げてみると、デューイの十進分類表などと共に、第3表の情報学分野の教科書リストで最上位にあった Hayes の *Handbook of Data Processing for Libraries* が浮び上って来る。しかしなお、これら新た

第4表 Hsu と Diodato 共編のリスト中で10以上の科目で利用されていた教科書のリスト (使用科目の多い順)

	使 用 数 目	使用学校数 (42 校 中)
1. Anglo-American Cataloging Rules, Prepared by the American Library Association, the Library of Congress, the Library Association and the Canadian Library Association, North American text. Chicago, American Library Association, 1970.	47	33
2. Winchell, Constance Mabel: Guide to Reference Books, 8th ed. Chicago, American Library Association, 1967. (Sheehy, Eugene P. 9th ed. 1976.)	28	16
3. Katz, William Armstrong: Introduction to Reference Work, Vol. 1, Basic Information Sources, 2d ed. New York, McGraw-Hill, 1974.	25	24
4. Arbuthnot, Mary Hill: Children and Books, 4th ed., by Mary Hill Arbuthnot and Zena Sutherland. Glenview, Illinois, Scott, Foresman, 1972.	22	19
5. Joint Committee of the American Association of School Librarians and the Department of Audiovisual Instruction of the National Education Association: Standards for School Media Programs. Chichgo, American Library Association, 1969.	22	19
6. Schmeckebier, Laurence Frederick: Government Publications and Their Use, by Lawrence F. Schmeckebier and Roy B. Eastin. Washington, D. C., Brookings Inst., 1969.	19	19
7. Carlsen, G. Robert: Books and Teen-Age Reader; A Guide for Teachers, Librarians, and Parents, rev. ed. New York, Bantam Books, 1972.	18	18
8. Carter, Mary Duncan: Building Library Collection, 3d ed., by Mary Duncan Carter and Wallace John Bonk. Metuchen, N. J., Scarecrow Press, 1969.	18	17
9. Katz, William Armstrong: Introduction to Reference Work, Vol. 2. Reference Services, 2d ed. New York, McGraw-Hill, 1974.	15	15
10. American Library Association. Subcommittee on the ALA Rules for Filing Catalog Cards: ALA Rules for Filing Cards, 2d ed. Chicago, American Library Association, 1969.	15	12
11. Huck, Charlotte S.: Children's Literature in the Elementary School, by Charlotte S. Huck and Doris Young Kuhn. New York, Holt Rinehart and Winston, 1968.	13	10
12. Gates, Jean Key: Guide to the Use of Books and Librarians, 3d ed. New York, McGraw-Hill, 1973.	12	10
13. Wynar, Bohdan S.: Introduction to Cataloging and Classification, 4th rev. ed. Littleton, Colorado, Libraries Unlimited, 1972.	12	11
14. Sears, Minnie Earl: Sears List of Subject Headings, 10th ed., by Barbara M. Westby. New York, H. W. Wilson, 1972.	12	9
15. Weihs, Jean Riddle: Nonbook Materials; the Organization of Integrated Collections, by Jean Riddle Weihs, Shirley Lewes, and Jane MacDonald. Ottawa, Canadian Library Association, 1973.	11	11
16. Gates, Jean Key: Introduction to Librarianship. New York, McGraw Hill, 1968.	10	10
17. Goldhor, Herbert: An Introduction to Scientific Research in Librarianship. Champaign, Illinois, University of Illinois Graduate School of library Science, 1972.	10	10
18. Winchell, Constance Mabel: Guide to Reference books. 8th ed. Second Supplement. Chicago, American Library Association. 1970 (1st Suppl. 9,8; Suppl. 8,7)	10	8

に追加された 13 タイトル (但しそのうち 2 タイトルは Winchell の補遺版) は、この Hayes と、大学図書館運営の Rogers と、図書および印刷についての McMurtrie の本を除くと、すべて、又上記のノン・ブック・メディア (3 冊)、目録分類 (3 冊)、レファレンス関係 (3 冊)、児童文学・児童図書館 (1 冊) などの分野に属する教科書類であった。(第 5 表参照)

1971 年から、リストの作られた 1975 年迄の 5 年間に、改版または 3 版、4 版という形で出版され、且つこのリストに載せられているような、ある程度教科書としての地位を確立したと思われる本を調べてみると、上記の表の中に含まれているものを除いても、55 冊あった。このうち参考図書解題の分野の 11 冊 (一般 2 冊、人文科学 1 冊、社会科学 3 冊、科学技術 2 冊、政府刊行物 2 冊、雑誌 1 冊) の次に多いのがコンピュータおよび情報学分野

の 10 冊で、つづいてノン・ブック・メディアの 6 冊、児童文学および児童図書の 5 冊、システム経営の 4 冊、教育資材の 3 冊、といったものが続いている。即ち、情報科学関係の教科書は比較的新しいものが多く、しかも種類も多いので、Hayes の Handbook を除くと、特定の教科書に利用が集中する傾向が未だ見られないのではなかろうか。同様な傾向がシステム経営の分野についても言えるようである。又、図書館学研究の教科書がこのグループに 2 冊含まれていることは特記に値しよう。

リストの 572 タイトルの出版年は大部分 (84.6%) 1966 年版以後のものによって占められているが、最も多いのは 1972 年の 92 タイトルで、以下 1970 年の 78 タイトル、1973 年の 72 タイトル、1971 年の 64 タイトルと続いていることから明らかなように、教科書としての地位が確定

第 5 表 Hsu と Diodato のリスト中 7 科目以上 9 科目迄に使用されていた教科書のリスト (使用科目の多い順)

	使用 科目数	使用学校数 (42 校中)
19. Davis, Ruth Ann: The School Library Media Center; A Force for Educational Excellence, 2d ed. New York, R. R. Bowker, 1974.	9	9
19. McMurtrie, Douglas Crawford: The Book; The Story of Printing and Bookmaking, 3d ed. New York, Oxford University Press, 1943.	9	9
21. Dunkin, Paul Shaner: Cataloging USA. Chicago, American Library Association, 1969.	9	8
21. Winchell, Constance Mabel: Guide to Reference Books, First Supplement. Chicago, American Library Association, 1968.	9	8
23. Hicks, Warren: Developing Multi-Media Libraries, by Warren Hicks and Alma M. Tillin. New York, R. R. Bowker, 1970.	8	8
23. Rogers, Rutherford D.: University Library Administration, by Rutherford Rogers and David C. Weber. New York, H. W. Wilson, 1976.	8	8
23. Sawyer, Ruth: The Way of the Storyteller. rev. ed. New York, Viking Press, 1962.	8	8
26. Dewey, Melvil: Dewey Decimal Classification and Relative Index, 18th ed. Albany, New York, Forest Press, 1971.	8	7
26. Winchell, Constance Mabel: Guide to Reference Books, 3d Supplement. Chicago, American Library Association, 1972.	8	7
28. Hoselitz, Berthold Frank: A Reader's Guide to the Social Sciences, rev ed. New York, Free Press, 1972.	7	7
28. Immroth, John Phillip: A Guide to Library of Congress Classification, 2d ed. Littleton, Colorado, Libraries Unlimited, 1971.	7	4
30. Brown, James Wilson: AV Instruction; Technology, Media, and Methods, 4th ed, by James W. Brown, Richard B. Lewis and Fred F. Harclerod. New York, McGraw-Hill, 1973.	7	6
30. Hayes, Robert Mayo: Handbook of Data Processing for Libraries, by Robert M. Hayes and Joseph Becker. New York, John Wiley, 1970.	7	6

する迄に出版から大体3年以上の年月が経っていて、6年を越えると徐々に新しいものと交替しているようである。しかし中には1927年刊行のものもあり、その他にも1930年代のものが3タイトルもあり、1950年以前のタイトルが合計10タイトルあった。

なお、このリストの452タイトル中52タイトル(11.5%)は Bowker Annual の“Basic Publications for Librarians” のリスト (228冊) 中のタイトルと重複しており、35タイトルはアメリカ情報学会の1972—73年調査のリスト (206冊) と重複していた。この3者のリストに共通のタイトルは次のとおりである。

Akers, Susan G.: *Simple Library Cataloging*, rev.

5th ed. Metuchen, N. J., Scarecrow Press, 1969.

Carlsen, G. Robert: *Books and the Teen-Age Reader: A Guide for Teachers, Librarians and Parents*, rev. ed. New York, Bantam Books, 1972.

Goldhor, Herbert: *An Introduction to Scientific Research in Librarianship*. Champaign, Illinois, University of Illinois Graduate School of Library Science, 1972.

Hayes, Robert Mayo: *Handbook of Data Processing for Libraries*, by Robert M. Hayes and Joseph Becker. New York, John Wiley, 1970.

Katz, William Armstrong: *Introduction to Reference Work*: vol. 2. Basic Information Sources, 2d ed. New York, McGraw-Hill, 1974.

Katz, William Armstrong: *Introduction to Reference Work*. vol. 2. Reference Services, 2d ed. New York, McGraw-Hill, 1974.

この他に、アメリカ情報学会の2回の調査リスト作成の責任者であった Jack Belzer が C. Kamila Roderstson と共に作成し、1976年に発表した *Key Publications in Information Science: A Select List* という情報学の歴史的発展の過程で主要な役割を演じた図書資料の選択的リストがある。<sup>9)</sup> これは1627年から1976年迄の出版物144タイトルを収録している。Introduction から始まり、Communication, Librarianship, Book Production, Information Retrieval と24のカテゴリーに主題を分けて、それぞれのカテゴリー内では、古い出版年の図書・資料から、順に歴史的にその分野の“Key”となったと思われるものを配列している。それぞれの主題の歴史的発展を調べるのには有益な情報源であると思われる。ただ Belzer 自身の文献が七つも含まれているこ

とから、その“Key”文献の選択がいさゝか主観的であり過ぎたのではないかという疑いが残ることはいえない。

## II. わが国の図書館・情報学分野の教育に使用されている教科書の調査

前述のように、図書館・情報学分野における図書の出版量は、他の学問分野同様に年々増加しており、その中には、専門教育の課程で教科書として使用されることを目的として出版されているものも少なくない。しかしながらその一方、情報学の分野などでは、未だ学問としての基礎が十分に確立されていない上に、新しい対象分野が、その一部としてどんどん取り入れられているという事情も影響してか、この分野の先進国のアメリカにおいてさえ、Hayes の *Handbook of Data Processing for Libraries* 以外は、はっきりと定着した教科書は見当らず、わが国においては、科目が設置されても、学生に読ませるべき適当な日本語の教科書や参考書が少ないため、教育担当者が作成したノートを中心に教育が行われている場合が多く、ノートを整理して作った講義用のプリントなどの形のものも盛んに使用されているようである。同様の形式のものが、図書館学の他の科目の分野にも存在している。これらのプリントの中には、若し出版物の形態になれば、他の大学の同じ主題の科目においても教科書として使用できるものも少なくないと思われる。また実際に、既に自分の教授科目のために教科書を出版して使用している人達も少なくないのに、これらの教科書の存在が、必ずしも十分には関係者に知られていない場合もあり得る。このような状況に対して何らかの有効な対策を立てるためにも、わが国における図書館・情報学教育分野の教育者達によって使用されている教科書について調査することは有益であると思われる。

そこで日本図書館協会が1974年に編纂した『図書館学教育担当者名簿』<sup>10)</sup> から専任の教育担当者365名を選んで、今年(1978)2月に、第1図に示す文面を往復葉書に刷った質問票による調査を行った。

124名(34.1%)から回答があり、その他に55名(15.1%)の葉書が住所不明若しくは、1年以上前に宛名の人が転居しているという理由で送り戻されてきた。回答のあった124名中には、既に物故された方が2名あり、又、退職、転職などの理由で、調査時点では既に図書館・情報学教育の場を去られたりして、この分野の科目を担当していないとの回答があったものが15もあった。従って有



各位

図書館・情報学に関する基本図書調査

拝啓 益々御清祥のことと御慶び申し上げます。

さて、慶應義塾大学文学部図書館・情報学科 津田研究室では、図書館・情報学に関する基本図書の調査を行っております。その一環として、わが国の図書館・情報学関係の講座設置機関の教育担当者の方々が、授業に利用なさっている図書名を調査致すことになりました。つきましては、お手数ながらよろしく御協力下さいますようお願い申し上げます。

復信の葉書に御記入の上、2月末日までに御返送下さい。なお、この調査票の調査対象者は、昭和47年度『図書館学教育担当者名簿』を基にしておりますので、あらかじめ御了解下さいますようお願い致します。また、調査結果は、Library and Information Science 上に発表致す予定です。

敬具

昭和53年2月1日

慶應義塾大学文学部図書館・情報学科

津田研究室

講座名 \_\_\_\_\_

教科書名 \_\_\_\_\_

講座名 \_\_\_\_\_

教科書名 \_\_\_\_\_

講座名 \_\_\_\_\_

教科書名 \_\_\_\_\_

## 第1図 本調査に使用した質問票

効回答は107 (29.4%) となった。

回答率を低めた大きな原因としては、住所不明などが55名と、退職・転職・物故などが17名もあったことがあげられる。回答者の中にも既に現職を離れている方が数名おられた(今回は一応有効回答としてリストに含めた)ことなどを考えると、調査時には『図書館学教育担当者名簿』の1978年版<sup>1)</sup>が未だ出版されていなかったためとはいえ、調査対象者を選ぶ手段として、1974年版の名簿を使用したのは必ずしも妥当ではなかったと思われる。例えば、1974年版には769名の教育担当者名が収録されていたが、1978年版ではそれが908名と約18%も増加している。又、1回の往復葉書の配布だけで、調査データの回収を打ち切ってしまったことと、調査対象者を専任の教育担当者のみに絞ったことなども、この調査の目的から考えると、費用、時間その他の理由があったとはいえ、必ずしも正当な判断であったとは言い切れない。

なお調査の結果判ったことであるが、回答者が幾つもの科目を教えている場合には、その科目名と、図書名を正確に書くには、葉書のサイズでは無理であったため、書誌的な事項の記述が抄略されている場合が多く、従ってリストされた図書の書誌的な事項の記載にも不備が目

立っている。

有効回答の107名中89名(83.2%)の回答を集計し、報告された教科書を著者名のアルファベット順に配列して、その各々の書名の下に、その教科書を使用している教育担当者の教えている学校名と、科目名を記したリストを作成した。(附録1参照)

これら89名の教科書使用者は、147タイトルの教科書又は参考書を使用していたが、そのうち28タイトル(19.7%)はアメリカ若しくはイギリスの図書で、その他に翻訳書も5冊あった。従って日本の教科書は114冊であるが、その約5分の1の25冊は日本図書館協会の出版物であり、その25冊中の10冊は“図書館の仕事シリーズ”に属するものであった。この事実は、日本図書館協会の出版物が、図書館・情報学教育に大きな貢献をしていることを証明している。そしてこのことは第1の特徴としてあげることができよう。

第2の特徴は、図書館・情報学関係の叢書類で、教科書に使用されているものも多いことである。これらの叢書名及び、その叢書中で教科書又は参考書として使用された図書の書名、叢書番号と、使用人数、使用科目数は次のとおりである。(第6表参照)

わが国の図書館・情報学教育で使用されている教科書および参考書

第6表 図書館・情報学教育に教科書又は参考書として使用されている叢書類

\*附録リストの文献番号

\*\*著者自身が教科書として使用

出 版 社	叢 書	書 名	出版年	叢書 番号	文献* 番号	使用 人数	使 用 科目数	
日本図書館協会	図 書 館 の 仕 事	調査と統計	'74	4	66	1	1	
"	"	図書の選択	'67	6	143	3	3	
"	"	図書の受入・保管・払出	'67	7	51	1	1	
"	"	分類と目録	'74	8	23	3	6	
"	"	洋書目録のつくり方	'67	11	57	2	2	
"	"	件名目録の実際	'73	12	138	1	1	
"	"	貸出と閲覧	'66	13	55	1	1	
"	"	レファレンス・ワーク	'66	14	95	7	9	
"	"	逐次刊行物	'71	17	47	1	1	
"	"	図書館学学習の手引	'73	24	121	2	2	
教育出版センター	講 座 新 図 書 館 学	図書館通論	'77	1	1	2	2	
"	"	図書館資料論	'76	2	119	3	3	自**
"	"	図書館活動	'76	6	94	1	2	自
"	"	情報管理	'76	9	80	1	1	自
明 治 書 院	図 書 館 学 シ リ ー ズ	図書館通論	'70		34	8	8	
"	"	図書分類法概説	'66		27	2	3	
"	"	図書館資料概説	'69		43	2	2	
雄 山 閣	日 本 図 書 館 学 講 座	学校図書館と児童図書館	'76	5	117	1	1	自
"	"	レファレンスワーク	'77	8	30	3	3	自
"	"	情報検索	'76	9	109	1	1	
理 想 社	現 代 図 書 館 学 叢 書	参考調査法	'69	5	77	4	4	自
"	"	図書館奉仕論	'69	6	45	5	5	
汲 古 書 院	図書館学参考図書目録入門書	図解古書目録法	'74	2	74	1	1	自
"	"	図解書誌学入門	'76	4	75	1	1	自
白 石 書 店	図 書 館 学 教 育 資 料 集 成	図書館活動論	'74	3	116	1	1	自
理 想 社	図書館学テキスト・シリーズ	資料分類法概説	'78予	3	64	2	4	自
専門図書館協議会	専門図書館協議会研究報告	資料活動は如何にあるべきか	'75	1	112	1	1	
日本放送出版協会	講 談 社 学 術 文 庫	図書館の発見市民の新しい権利	'73	194	33	1	1	
講 談 社	N H K ブ ッ ク ス	論文の書き方	'77	153	111	1	1	
東京大学出版会	東 京 大 学 公 開 講 座	情 報	'71	13	35	1	1	
"	戦 後 日 本 の 教 育 改 革	社 会 教 育	'71	10	129	2	2	
第一法規出版	教 育 学 叢 書	社 会 教 育	'70	16	128	2	2	自
学 陽 書 房	現 代 大 学 叢 書	マスコミュニケーション概論	'74		40	1	1	
笠 間 書 院	笠 間 選 書	図書館学IV 書誌学	'74	9	26	1	1	
有 斐 閣	有 斐 閣 叢 書	経 営 情 報 論	'75		130	1	1	
ミネルヴァ書房	社 会 事 業 新 書	社 会 調 査 入 門	'68		31	1	1	
Interscience	Library Science & Documentation	Textbook on Mechanized Information Retrieval	'66	3	41	1	1	
Melville	Information Science Series	Literature and Bibliography of the Social Sciences	'73		15	1	2	
Teachers College	Classic in Education	American Ideas about Adult Education	'59	2	24	1	1	

日本図書館協会の「図書館の仕事」シリーズが10タイトルあげられており、22名の教育担当者が27の科目でこれら10タイトルのいずれかを使用していた。続いて、教育出版センターの「講座新図書館学」が4タイトル、7名、8科目とこれに続いている。次の明治書院の「図書館学シリーズ」は今回の調査結果としてあげられたのは3タイトルで、「講座新図書館学」の4タイトルに及ばなかったが、使用者は12名で13科目に使用されていた。一般的に言って、叢書類はもともと教科書・参考書として使用されることを目的に作られているものが多いせいか、図書館・情報学教育でのこうした利用も盛んである。そして教科書として定着するのに必然的に時間がかかるためか、比較的古い出版年のものが、新しいものより多く使用されている。又、図書館通論のような全般的な主題の図書の利用が、逐次刊行物とか、件名目録とかいった特定主題の図書より殊に多いのも特徴の一つであろう。もっとも、この事は、現在の図書館学教育機関中、8単位の司書教諭と、19単位の司書資格の教育を主な目的とするものが多く、従って、余り特定主題を深く教育する科目を持っていないことにも起因しよう。なお、この他に教育面の傾向を強く反映していると思われた点は、レファレンス分野の教科書としてよく使用されている図書が幾つか見られたのに対して、情報管理、情報検索分野では、教科書又は参考書として、2人以上の教育担当者が、同じ図書をあげているものが1冊もなかったことである。多分、情報学は分野が新しいせいか、教育者のこの分野への対処の仕方もまちまちで、教科書もまだ定着したものが少ないことが原因であろう。

第3の特徴としては、この分野には、教育担当者が自分の科目の授業のために準備した、出版されていないでプリントの形式のままの教科書が多く、出版されていても著者だけが自分の科目で使用しているというケースが目立っていることがあげられる。

即ち、リストされた147タイトル中52タイトル(35.4%)が、科目担当者が自分で書いた教科書であり、これは和文タイトル114冊の45.6%に達している。又、和文の教科書で、著者自身によって教科書として使用されているとの報告のなかった62冊中21冊は、現在図書館学教育を担当している人の著作であり、そのうち15冊は、著者自身からの調査回答がなかったため、本人が教科書として使用しているかどうかの確認が出来なかったが、著者以外の人達の使用が報告されていたため、リストに含まれたものである。他の6冊は、著者から回答があったに

もかわらず、その教科書としての使用の明示がなかったが、著者以外の教育担当者がこれを教科書として使用していたものである。

著者自身が担当の科目で、その教科書又は参考書に使用しているとの報告のあった52冊中42冊(80.8%)は、著者のみによって使用されており、そのうち12冊は雑誌論文やプリントの類であった。

この事実から推測すると、今回の調査の対象から洩れた人達や、何らかの理由で回答のなかった教育担当者の中には、やはり自分の科目だけの教科書を作っている人達が、まだ何人も存在することは疑う余地がない。従って、図書館学の教科書の過半数が、教育担当者によって、自分の科目のために書かれたものであると言うことができる。そして、それらの教科書の存在が、教育担当者の中でも必ずしも十分に知られていないために、同じような科目を教えている他の教育担当者によっても、それらの著者の業績が十分には活用されていないのか、又は図書館学の教育者達が非常に個性的で、仲間の業績ですら活用しない傾向があるのかのどちらかであると言えよう。もっともこの52冊の中には、著者を含めた8名が教科書に使用している図書や、7名が九つの科目で使用しているものや、6名が七つの科目で使用しているものもあるが、これらはどちらかと言えば例外的なケースであった。

利用の多いタイトルを順にあげてみると次の表のとおりである。(第7表参照)

図書館教育担当者3名以上によって使用されている教科書は全部で19冊あり、そのうち最も多くの人によって使用されているのは、全国学校図書館協議会編纂の『図書館学演習資料』で、教科書を使用していると答えた89名中24名(27.0%)が43の科目で使用していた。2番目も学校図書館教育のための一般的な教科書である『学校図書館通論』の13名、15科目での使用であった。3番目は司書教育のための一般書である『図書館通論』の8名、8科目使用となっている。その他に図書館学全般を取扱ったものとしては、椎名六郎著『新図書館学概論』や、日本図書館協会の『図書館講習資料』、草野正名著『図書館学原論』などが含まれている。その他のグループとしては、目録・分類作業に必要な道具としての『日本十進分類法』や、『日本目録規則』『基本件名標目表』なども含まれており、更にレファレンスおよびその関係の資料に関する図書が5冊も顔を出している。

教科書又は参考書として使用されている洋書は、前述のように28タイトルが報告されている。これらは英訳書

第7表 使用者数の多い教科書（使用者数および使用科目数順）

	使用者数	使用科目数	文献番号
① 全国学校図書館協議会 図書館学演習資料 前編・後編 新訂版 東京 全国学校図書館協議会 1976	24	43	146
② 図書館教育研究会 学校図書館通論 新版 東京 学芸図書 1972	13	15	124
③ 石塚正成 図書館通論 改訂増補版 東京 明治書院 1970 (図書館シリーズ)	8	8	34
③ 長沢雅男 レファレンス・ブッケーなにを・どうして求めるか— 東京 日本図書館協会 1961	8	8	76
⑤ もりきよし 日本図書館協会分類委員会改訂 日本十進分類法 新訂7版 東京 日本図書館協会 1961	7	16	63
⑥ 小田泰正編 レファレンス・ワーク 東京 日本図書館協会 1966 (図書館の仕事14)	7	9	95
⑦ 日本図書館協会日録委員会 日本日録規則 東京 日本図書館協会 1965 (同新版予備版 1977)	6	10	90
⑧ 草野正名 図書館の歴史 3訂版 東京 学芸図書 1971	6	7	50
⑨ 北島武彦 図書館奉仕論 東京 理想社 1969 (現代図書館学叢書6)	5	5	45
⑨ 椎名六郎 新図書館学概論 東京 学芸図書 1973	5	5	115
⑪ 日本図書館協会件名標目委員会 基本件名標目表 改訂版 東京 日本図書館協会 1972	4	8	89
⑫ 日本図書館協会 図書館講習資料 3訂版 東京 日本図書館協会 1972	4	5	88
⑬ 長沢雅男 参考調査法 レファレンス・ワークと情報サービス 東京 理想社 1969 (現代図書館学叢書5)	4	4	76
⑭ 後藤純郎編 分類と目録 東京 日本図書館協会 1974 (図書館の仕事8)	3	8	23
⑮ 日本図書館協会 図書館白書 東京 日本図書館協会 年刊	3	5	85
⑮ 長澤規矩也 書誌学序説 増補再版 東京 吉川弘文館 1970	3	5	72
⑰ 井出 翁 レファレンスワーク 東京 雄山閣 1977 (日本図書館学講座8)	3	3	30
⑰ 草野正名 図書館学原論 研究・実務のための手びき 増補改訂版 東京 内田老鶴園新社 1967	3	3	48
⑰ 高田克太郎ほか 図書館資料論 東京 教育出版センター 1976 (講座新図書館学2)	3	3	119
⑰ 弥吉光長編 図書の選択 東京 日本図書館協会 1967 (図書館の仕事6)	3	3	143

1冊を含めた2冊の英国の図書を除くと、すべてアメリカの出版物であった。そしてこの28タイトル中2タイトルのみが、それぞれ2名の教育担当者により使用されているだけで、残りの26冊はすべて、只1名によって使用されていた。洋書の使用には明らかに片寄りがあり、この28タイトルを東京大学、慶應大学などの大学院教育を行っている教育機関と、東洋大学や図書館短期大学のように教育課目数が多く、教える対象科目が細分化されている大学などを含めた7大学に属する11名の教育担当者が、19の異なった科目で使用していた。その使用科目には、情報管理、情報検索論、ドキュメンテーション論、図書館機械論、情報システム経営、原典講読といったように、当然外国語の図書の使用が予測できる課目ばかりでなく、資料目録法や参考調査法、参考調査資料論、社

会教育演習のような科目も含まれている。

又これら28冊の洋書中半分の14冊は、前述の Hsu と Diodato による図書館・情報学の教科書のリストに載っているタイトルであり、翻訳書5冊のうちの2冊の原本もこのリストに載っている。このリストに載っていない残りの14タイトル中2冊は1977年、3冊は1976年出版の図書で、当然 Hsu と Diodato のリストには載っている筈のないものであった。残り9冊中1冊は、やはり前述のアメリカの大学の情報学の科目で使用されている教科書を、Belzer らが調査して、1971年と1975年にリストにして発表した時の両方のリストに載っており、更に1冊は、*Bowker Annual* の“Basic Books and Periodicals for Libraries”に載っていた。それらの中には、Akers の *Simple Library Cataloging* の翻訳本であるとか、

Kent の *Textbook on Mechanized Information Retrieval*, Katz の *Introduction to Reference Work* などのように、特によく知られた図書も含まれている。このことから、わが国での洋書の教科書、参考書の利用もまずまず間違いのない選択の下に行われているということができよう。たゞ一つ気になることは、アメリカの情報学教育で最も多く使用されている Hayes と Becker の *Handbook of Data Processing for Libraries* が、この28冊の中に含まれていない点である。

教科書類は使用せずと答えた18名の中には、教科書は使用しないが教材として、プリントを配布していると明記している人が3名あった。一方、教科書又は参考書をあげていた89名中にも、科目によっては“ノートにより講義”，又は“特に教科書を指定せず，必要に応じて参考図書を指示する”などの回答が16名あり，両者の間にはっきりした境界が存在していないように思われた。即ち，質問時に教科書と参考書の違いを予め明確に定めておき，且つ参考書としてはどの範囲までを対象にするのかを明示しておく必要があったことを痛感した。

### III. 結 論

調査目的が，わが国の図書館・情報学教育の現場で使用されている教科書・参考書類を明らかにすることにより，その傾向，問題点などを検討して，教科書・参考書などの選択の一助とすることにより，且つ教科書が不足している分野はどの分野かなどを明らかにすることであった。従って，大体の目的を達したとは言え，調査対象を専任の教育担当者だけにしぼったことは，多くの図書館現場の指導者達が，非常勤で図書館学教育機関に勤務している現状を考えた場合，必ずしも妥当ではなかったかも知れない。しかも，調査対象者の選択に，1974年出版の『図書館学教育担当者名簿』を使用せざるを得なかったことは，必要以上に回答の回収率（34.1%）を低めることになってしまっただけで残念であった。

調査結果として明らかになったことは，相当多数の人が教科書を使用しないで，自作のノートなどに従って教育を行っていることである。即ち，回答者124名中の18名（14.5%）は全く使用せずと答え，参考書名をあげた89名中16名（全回答者の13.0%）も，ノート中心の教育であることを明記している。

回答者によってあげられた147タイトルの教科書および参考書中，28タイトル（19.0%）は英文の外国図書であり，5冊（3.4%）は翻訳書で，共にほとんどがアメリカ

カの図書であった。そしてこれらの過半数がアメリカの図書館・情報学教育でも使用されている図書類であった。

リスト中の和文タイトル114冊の傾向としては，日本図書館協会の出版物が25冊（21.9%）含まれていて，この面での協会の活動の活発さが印象強かったことと，叢書類の中のタイトルが36冊（31.6%）もあげられていること，及び52冊（45.6%）もの図書が，回答を寄せた教育担当者自身に依って書かれ，自分の担当科目で教科書として使用しているものであり，しかもそのうちの42タイトルは，著者だけにしか使用されていなかったことなどが特徴としてあげられよう。なお，多くの担当者によって使用されていた図書は，司書教諭の教育用などのために準備されたオムニバスの資料などと，分類法，件名標目などの分類，目録作業での必要な道具類と，レファレンス，およびレファレンス資料の解題の類であった。

以上の結果から得られる結論としては，次のような点をあげることが出来よう。

- ①既に他の教育担当者によって書かれてプリントになったり，出版されたりしている教科書を十分に検討して，自分の担当科目で使用できるものは，教科書若しくは参考書として，どしどし利用してゆくべきであろう。
- ②情報学および情報システム経営の分野に，もっと日本語の教科書や参考書が必要である。
- ③より多くの勝れた外国の教科書類が，翻訳されるべきである。
- ④学問の国際性から考えると，もっと外国の教科書の利用が一般化されるべきと思われる。
- ⑤司書教諭などの教育にも，もっと多くの教科書が併用されるべきであろう。

最後に，御多忙中にもかかわらず，当調査に御協力下さった諸先輩および仲間の諸兄に，心から感謝申し上げる次第である。

- 1) Williamson, Charles C. *The Williamson Reports of 1921 and 1923*. Metuchen, N. J., Scarecrow Press, 1971. p. 70-5.
- 2) 出版年鑑. 東京, 出版ニュース社, 1977. p. 164-8; 1976. p. 180-4; 1975. p. 180-3; 1974. p. 180-4; 1973. p. 196-200; 1972. p. 196-200; 1971. p. 248-53; 1970. p. 248-53; 1969. p. 248-53; 1968. p. 248-53; 1967. p. 248-53; 1966. p. 248-52; 1965. p. 212-15.

- 3) Jones, Adrian "Bibliography on library literature in Japan," *Library Quarterly*, vol. 41, no. 1, Jan. 1971, p. 54-60.
- 4) 天野敬太郎 "図書館学書誌の書誌" 図書館界, Vol. 20, no. 6, Mar. 1969, p. 201-31.
- 5) *Bowker annual of library and book trade information*. New York, R. R. Bowker, 1977, p. 599-609; 1976, p. 447-57; 1975, p. 431-9; 1974, p. 429-39; 1973, p. 467-73; 1972, p. 111-20.
- 6) Belzer, Jack, *et al.* "Curricula in information science; analysis and development," *Journal of the American Society for Information Science*, vol. 22, no. 3, May-June 1971, p. 213-4.
- 4) Belzer, Jack, *et al.* "Curricula in information science; analysis and development," *Journal of the American Society for Information Science*, vol. 26, no. 1, Jan, Feb. 1975, p. 28-31.
- 8) Hsu, Kuang-ling and Diodato, Virgil P. comp. "Library and information sciences textbooks-in-use: a master checklist," *Information reports and bibliographies*, vol. 5, no. 2, 1976, p. 2-37.
- 9) Belzer, Jack and C. Kamila Robertson "Key publications in information science: a selective list," *Bulletin of the American Society for Information Science*, vol. 2, no. 8, Mar. 1976, p. 35-8.
- 10) 日本図書館協会, 図書館学教育担当者名簿: 昭和48年調査, 東京, 日本図書館協会, 1974
- 11) 日本図書館協会, 図書館学教育担当者名簿: 昭和52年調査, 東京, 日本図書館協会, 1978.

# わが国の図書館・情報学教育で使用されている教科書および参考書のリスト

(著者名のABC順)

1. 安部参己ほか 図書館通論 東京 教育出版センター 1977 (講座新図書館学1)  
広島大——図書館学  
国士館大——図書館学I  
Library, 7th ed., by Mary N. Barton and Marion V. Bell. Baltimore, Enoch Pratt, 1970.  
東洋大——図書館学特講V (レファレンス・サービスおよびレファレンス資料解題)
2. Akers, Susan G. 洋書目録法 (*Simple Library Cataloging*, 3d ed.) 中村初雄 大内直之訳 東京 日本図書館協会 1951  
金蘭短大——資料目録法
3. American Library Association. Subcommittee on the ALA Rules for Filing Catalog Cards. *ALA Rules for Filing Catalog Cards*, 2d ed., edited by Pauline A. Seely. Chicago, American Library Association, 1969.  
金蘭短大——資料目録法
4. Asheim, Lester, *The Humanities and the Library: Problems in the Interpretation, Evaluation and Use of Library Materials*. Chicago, American Library Association, 1957.  
慶大——資料論I  
慶大——資料論III
5. 朝日新聞学芸部 一冊の本 東京 雪華社 1967  
山形県立米沢女子短大——書誌解題 (日本)
6. 馬場重徳 文献情報活動の為の資料論<昭和47年度 大学図書館職員長期研修講義要項 東京 図書館短期大学 1972> p.69-93.  
図書館短大——文献情報資料・収集と選択
7. 馬場重徳 “ドキュメンテーションに於ける標準と標準化に就いて” 山陽技術雑誌 vol. 18, no. 1, Jan. 1964, p. 1-69.  
図書館短大——ドキュメンテーションの標準化
8. 馬場重徳 情報管理 (*Introduction a la Documentation*)<文部省委嘱司書講習講義要項 東京 図書館短期大学 1976> p. 31-60.  
図書館短大——ドキュメンテーション概説
9. 馬場重徳 “資料に関する比較資料学的基础理論” 図書館短期大学紀要 no. 6, Mar. 1973, p. 1-68.  
図書館短大——文献情報資料・収集と選択
10. Barton, Mary N. *Reference Books: A Brief Guide for Students and Other Users of the*  
Colwell, Eileen 子どもと本の世界に生きて一児童図書館員のあゆんだ道 石井桃子訳 東京 福音館 1968  
専修大——図書館通論
12. Dahl, Svend. *History of the Books*, 2d ed. Metuchen, N. J., Scarecrow Press, 1969.  
日大——図書館学IV 書誌学
13. Dewey, Melvil. *Dewey Decimal Classification and Related Index*, 18th ed. Albany, New York, Forest Press, 1971. 3 vols.  
東洋大——図書館学演習III
14. Doyle, James, and Grimes, George H. *Reference Resources: A Systematic Approach*. Metuchen, N. J., Scarecrow Press, 1976.  
慶大——参考調査法  
東大——参考調査資料論
15. Freides, Thelma. *Literature and Bibliography of the Social Sciences*. Los Angeles, Melville, 1973. (Information Science Series)  
慶大——資料論I  
慶大——資料論III
16. 富士川金二 博物館学 改訂増補 東京 成文堂 1971  
大妻女子大——博物館学
17. 富士川金二 日本文化史 中村書房 1970  
大妻女子大——日本文化史
18. 富士川金二 社会教育学 東京 成文堂 1970  
大妻女子大——社会教育施設・社会教育概論
19. 富士川金二 社会教育行政学 改訂版 東京 成文堂 1976  
大妻女子大——社会教育行政
20. 福原匡彦 三角哲生編 社会教育委員必携 東京 全日本社会教育連合会 1975  
静岡女子短大——社会教育
21. Goldman, Stanford 情報理論 (*Information*

- Theory) 関 英男訳 東京 近代科学社 1956  
北海学園大——情報管理
22. Gates, Jean Key *Guide to the Use of Books and Libraries*, 3d ed. New York, McGraw-Hill, 1973.  
東洋大——図書館学概論
23. 後藤純郎 分類と目録 東京 日本図書館協会 1974 (図書館の仕事 8)  
今治明德短大——資料分類法  
今治明德短大——資料目録法  
国学院大——資料分類法  
国学院大——資料分類法演習  
国学院大——資料目録法  
国学院大——資料目録法演習
24. Grattan, C. H., ed. *American Ideas about Adult Education*. New York, Columbia University, 1959.  
東大——社会教育演習
25. Hamburg, Morris, et al. *Library Planning and Decision-Making Systems*. Cambridge, Mass., MIT Press, 1974.  
慶大——情報システム経営
26. 橋本不美男 原典をめざして—古典文学のための書誌— 笠間書院 1974 (笠間選書 9)  
日大——図書館学Ⅳ 書誌学
27. 服部金太郎 図書分類法概説 東京 明治書院 1966 (図書館学シリーズ)  
皇学館大——図書分類法  
相模女子大——資料分類法  
相模女子大——資料分類法演習
28. 早川浩一 マスコミュニケーションと大衆文化  
日大——マスコミュニケーション
29. Henley, John Patrick. *Computer-based Library and Information Systems*. 2d ed. London, MacDonald, 1972.  
図書館短大——図書館機械 (論)
30. 井出 翕 レファレンスワーク 東京 雄山閣 1977 (日本図書館学講座 8)  
慶大——参考調査法  
東大——参考調査法  
東洋大——図書館学特講Ⅴ (レファレンス・サービスおよびレファレンス資料解題)
31. 井垣章二 社会調査入門 東京 ミネルヴァ書房 1968 (社会事業新書)  
安城学園女子短大——社会教育
32. 石井 敦 日本近代公共図書館史の研究 東京 日本図書館協会 1972  
独協大——図書館史Ⅰ  
独協大——図書館史Ⅱ
33. 石井 敦 前川恒雄 図書館の発見 市民の新しい権利 東京 日本放送出版協会 1973. (NHK ブックス 194)  
専修大——図書館通論
34. 石塚正成 図書館通論 改訂増補版 東京 明治書院 1970 (図書館シリーズ)  
安城学園女子短大——図書館概論  
独協大——図書館通論  
法政大——図書館学総説  
今治明德短大——図書館通論  
皇学館大——図書館通論  
国士館大——図書館学Ⅰ  
園田学園女子大——図書館通論  
橘女子大——図書館通論
35. 情報 東京 東京大学出版会 1971 (東京大学公開講座13)  
純真女子短大——情報管理
36. 情報社会科学講座 東京 学習研究社 1971  
北海学園大——情報管理
37. 加藤一英 図書館概論序説 別府大学司書・司書補講習事務局  
別府大——図書館通論
38. 加藤宗厚 件名入門 東京 理想社 1972  
金蘭短大——資料分類法
39. Katz, William A. *Introduction to Reference Work*. vol. 1. Basic Information Sources, 2d ed. New York, McGraw-Hill, 1974.  
東大——参考調査資料論
40. 川中康弘ほか マスコミュニケーション概論 川中康弘 清水英夫 林伸郎共著 東京 学陽書房 1974 (現代大学双書)  
橘女子大——マスコミュニケーション
41. Kent, Allen *Textbook on Mechanized Information Retrieval*, 2d ed. New York, Interscience Publishers, 1966 (Library Science and Documentation vol. 3)



- 明石短大——情報管理
42. 紀田順一郎 日本の書物 東京 新潮社 1976  
山形県立米沢女子短大——書誌解題
43. 木寺清一 図書館資料概説 インフォメーション  
源資料を中心に 東京 明治書院 1969 (図書館  
学シリーズ)  
梅光女子学院大——図書館資料論  
今治明德短大——図書館資料論
44. 北島武彦編 参考業務 (情報・資料調査法—理論  
と実際) タイプ印刷  
共立女子大——参考資料奉仕論
45. 北島武彦 図書館奉仕論 東京 理想社 1969  
(現代図書館学叢書6)  
安城学園女子短大——レファレンス・ワーク  
独協大——図書館活動と社会教育  
一宮女子短大——図書館学課程 (図書館通論  
ほか)  
甲南女子大——図書館奉仕論  
橘女子大——図書館活動
46. 小林文人編 公民館・図書館・博物館  
東京学芸大——社会教育概論
47. 今 まどり編 逐次刊行物 東京 日本図書館協  
会 1971 (図書館の仕事17)  
大阪樟蔭女子大——資料整理法特論
48. 草野正名 図書館学原論 研究・実務のための手  
びき 増補改訂版 東京 内田老鶴圃新社 1967  
安城学園女子短大——図書館概論  
別府大——図書館概論  
独協大——図書館通論
49. 草野正名 図書館経営概論 東京 三省堂 1973  
安城学園女子短大——図書館概論 (同書から  
抽出の自作ノート使  
用)  
図書館短大——図書館経営論
50. 草野正名 図書館の歴史 3訂版 東京 学芸図  
書 1971  
安城学園女子短大——図書館概論 (同書から  
抽出の自作ノート使  
用)  
中京大——図書及図書館史  
独協大——図書館史Ⅰ  
独協大——図書館史Ⅱ  
鹿児島女子短大——図書および図書館史
- 橘女子大——図書及び図書館史  
図書館短大——図書及び図書館の歴史
51. 沓掛伊左吉編 図書の受入・保管・払出 東京  
日本図書館協会 1967 (図書館の仕事7)  
国学院大——図書館通論Ⅱ
52. Lancaster, Frederick Wilfred. *Information  
Retrieval Systems; Characteristics, Testing,  
and Evaluation*. New York, JohnWiley, 1968.  
図書館短大——情報検索論
53. Llewellyn, Robert W. *Information Systems*.  
Englewood Cliffs, N. J., Prentice Hall, 1976.  
慶大——情報システム経営
54. Loosjes, Th. P. *On Documentation of Scien-  
tific Literature*. Translated by A. J. Dickson.  
London, Butterworths, 1973.  
図書館短大——ドキュメンテーション論
55. 前川恒雄編 貸出しと閲覧 東京 日本図書館協  
会 1966 (図書館の仕事13)  
国学院大——図書館活動
56. 毎日新聞社 日本の名著 新装版 東京 毎日新  
聞社 1976  
山形県立米沢女子短大——書誌解題 (日本)
57. 丸山昭二郎編 洋書目録のつくり方 東京 日本  
図書館協会 1967 (図書館の仕事11)  
国学院大——資料目録法〔洋書〕  
共立女子大——洋書目録法
58. Meadow, Charles T. *Analysis of Informa-  
tion Systems*, 2d ed. New York, John Wiley,  
1973.  
図書館短大——情報検索論
59. Merrill, William Stetson. *Merrill の分類規程  
(Code for Classifier, Principles Governing the  
Consistent Placing of Books in a System of  
Classification)* 加藤宗厚記述 大阪 間宮商店  
1928  
金蘭短大——資料分類法
60. 三浦道雄 図書館施設と設備 東京 コロナ社  
1970  
独協大——図書館施設と設備
61. 三輪和敏 図書館教育と視聴覚教育 —コミュニ  
ケーションと教育— 大阪 創元社 1974  
神戸大——教育方法学
62. 文部省情報図書館課 昭和50年度 大学図書館実

わが国の図書館・情報学教育で使用されている教科書および参考書

- 態調査結果報告 東京 文部省情報図書館課  
1976  
慶大——情報システム経営
63. もりきよし 日本図書館協会分類委員会改訂 日本十進分類法 新訂7版 東京 日本図書館協会  
1961  
青葉短大——資料分類法  
青葉短大——資料分類法演習  
金蘭短大——資料分類法  
四国女子短大——資料分類法  
四国女子短大——資料分類法演習  
四国女子短大——資料目録法  
四国女子短大——資料目録法演習  
四国女子短大——図書の整理  
松蔭女子学院大——資料分類法  
常葉女子短大——資料分類法演習  
常葉女子短大——参考業務演習  
東洋大——図書館学演習Ⅲ  
宇部短大——資料分類法  
宇部短大——資料分類法演習
64. もりきよし 資料分類法概論 東京 理想社  
1974 (図書館学テキストシリーズ3)  
青葉短大——資料分類法  
青葉短大——資料分類法演習  
広島文教女子大——資料分類法  
東洋大——図書館学演習Ⅲ
65. もりきよし 資料目録法提要 (プリント)  
青葉短大——資料目録法  
青葉短大——資料目録法演習
66. 森 耕一編 調査と統計 東京 日本図書館協会  
1974. (図書館の仕事4)  
鹿児島女子短大——社会調査
67. 村上清造 図書館資料論 —中小公共図書館を主にした— 増補改訂版 東京 無限 1970.  
富山女子短大——図書館資料論
68. 村上清造 図書館通論 —地方図書館員の為の—  
1932  
富山女子短大——図書館通論
69. 長沢規矩也 古書分類法 東京 汲古書院  
図書館短大——古文獻整理法
70. 長沢規矩也 新編和漢古書目録法 東京 汲古書院 1975  
図書館短大——古文獻整理法
71. 長沢規矩也 古書のはなし —書誌学入門— 東京 富山房 1976  
愛知大——図書館学  
図書館短大——図書館学  
山形県立米沢女子短大——図書館学
72. 長沢規矩也 書誌学序説 増補再版 東京 吉川弘文館 1970  
愛知大——図書館学  
日大——図書館学Ⅳ 書誌学  
静岡女子大——書誌学  
図書館短大——図書館学  
山形県立米沢女子短大——図書館学
73. 長沢規矩也 図書館における郷土資料整理法 東京 汲古書院 1975  
愛知大——図書館学  
図書館短大——図書館学  
山形県立米沢女子短大——図書館学
74. 長沢規矩也 図解古書目録法 東京 汲古書院  
1974 (図書館参考図録入門篇2)  
図書館短大——古文獻整理法
75. 長沢規矩也 図解書誌学入門 東京 汲古書院  
1976 (図書館参考図録入門篇4)  
愛知大——図書館学  
図書館短大——図書館学  
山形県立米沢女子短大——図書館学
76. 長沢雅男 レファレンス・ブック —なにを・どうして求めるか— 東京 日本図書館協会 1974  
一宮女子短大——参考業務  
慶大——参考調査法  
慶大——参考調査資料  
皇学館大——参考業務演習  
甲南大——参考業務  
常葉女子短大——参考業務演習  
東洋大——図書館学特講Ⅴ  
山形県立米沢女子短大——参考業務
77. 長沢雅男 参考調査法 レファレンス・ワークと情報サービス 東京 理想社 1969 (現代図書館学叢書5)  
茨城大——学校図書館学  
一宮女子短大——参考業務  
慶大——参考調査法  
東大——参考調査法
78. 長沢雅男 社会科学文献 資料ガイド vol. 3,

- no. 8-12, 1967.  
慶大——資料論Ⅰ  
慶大——資料論Ⅲ
79. 永杉喜輔 藤原英夫編 社会教育概説 東京 協同出版 1973  
安城学園女子短大——社会教育  
千葉経済短大——社会教育
80. 中嶋正夫 和田弘名共著 情報管理 東京 教育出版センター 1976 (講座新図書館学9)  
大谷女子大——情報管理
81. 日本図書館協会 英米目録規則 北米版 東京 日本図書館協会 1969  
金蘭短大——資料目録法
82. 日本図書館協会 日本の参考図書 改訂版 東京 日本図書館協会 1965 (同補遺版 1972)  
東大——参考調査資料論
83. 日本図書館協会 日本の図書館 東京 日本図書館協会 1977  
慶大——情報システム経営
84. 日本図書館協会 市民の図書館 東京 日本図書館協会 1970  
法政大——図書館奉仕論  
専修大——図書館通論
85. 日本図書館協会 図書館白書 東京 日本図書館協会 年刊  
近畿大短大——図書館概論  
近畿大短大——図書館資料論  
共立女子大——図書館管理概説  
共立女子大——図書館通論  
専修大——図書館通論
86. 日本図書館協会 図書館ハンドブック 第4版 東京 日本図書館協会 1977  
慶大——情報システム経営
87. 日本図書館協会 図書館関係法規基準集 東京 日本図書館協会 1975  
国士館大——図書館学Ⅰ
88. 日本図書館協会 図書館講習資料 3訂版 東京 日本図書館協会 1972  
花園大——図書館学  
皇学館大——図書分類法  
皇学館大——図書目録法  
桃山学院大——資料目録法  
東横学園女子短大——資料分類法
89. 日本図書館協会件名標目委員会 基本件名標目表 改訂版 東京 日本図書館協会 1972  
青葉短大——資料分類法  
青葉短大——資料分類法演習  
金蘭短大——資料分類法  
四国女子短大——資料目録法  
四国女子短大——資料目録法演習  
四国女子短大——図書の整理  
松蔭女子学院大——資料分類法  
東洋大——図書館学演習Ⅲ
90. 日本図書館協会目録委員会 日本目録規則 1965年版 東京 日本図書館協会 1965 (同新版予備版 1977)  
青葉短大——資料目録法  
青葉短大——資料目録法演習  
相模女子大——資料目録法  
相模女子大——資料目録法演習  
四国女子短大——資料目録法  
四国女子短大——資料目録法演習  
四国女子短大——図書の整理  
図書館短大——資料組織論Ⅱ  
富山女子短大——資料目録法  
東横学園女子短大——資料目録法
91. 日本図書館研究会 図書の目録と分類 一図書館学講義資料一 改訂8版 京都 日本図書館研究会  
法政大——資料整理演習  
近畿大短大——資料分類法  
近畿大短大——図書館演習Ⅱ
92. 日本図書館研究会 目録編成規則 京都 日本図書館研究会 1961  
金蘭短大——資料目録法
93. 西崎 恵 図書館法 東京 日本図書館協会 1970  
国士館大——図書館学Ⅰ
94. 埜上 衛 図書館活動 東京 教育出版センター 1976 (講座新図書館学6)  
近畿大短大——図書館概論  
近畿大短大——図書館資料論
95. 小田泰正編 レファレンス・ワーク 東京 日本図書館協会 1966 (図書館の仕事14)  
萩女子短大——参考業務  
茨城大——学校図書館学  
今治明德短大——参考業務

- 皇学館大——参考業務  
大阪樟蔭女子大——参考業務  
大阪樟蔭女子大——参考業務演習  
四国女子短大——参考業務  
四国女子短大——参考業務演習  
常葉女子短大——参考業務
96. 小川利夫 倉内史郎編 社会教育講義 東京 明治図書 1964  
安城学園女子短大——社会教育
97. 小倉親雄 アメリカ図書館思想の研究 東京 日本図書館協会 1977  
慶大——資料組織概説
98. 岡野他家夫編 基本参考書  
国士館大——書誌学
99. 岡山誠司 情報科学序説  
北海学園大——情報管理
100. 小野則秋 図書分類法資料提要 京都 三和書房 1959  
仏教大——仏教大学通信教育図書館学  
仏教大——資料分類法
101. 小野則秋 図書目録法講義提要 京都 清明書房  
仏教大——仏教大学通信教育図書館学  
仏教大——資料目録法
102. 親子読書運動  
専修大——図書館通論
103. 立教大学日本史研究室編 近世文書演習 増訂 東京 柏書房 1970  
立教大——古文書実習
104. Rogers, A. Robert *The Humanities: A Selective Guide to Information Sources*. Littleton, Colorado, Libraries Unlimited, 1974.  
慶大——資料論Ⅰ  
慶大——資料論Ⅲ
105. Ross, Joel E. *Management by Information System*. Englewood Cliffs, N. J., Prentice-Hall, 1970  
慶大——情報システム経営
106. Rothstein, Samuel, "Development of the Concept of Reference Services in American Libraries, 1850-1900," *Library Quarterly*, vol. 23, Jan. 1953, p. 1-15  
慶大——参考調査法  
東大——参考調査法
107. 阪井敏郎 家族社会学 増補 京都 法律文化社 1975  
大阪女子大——社会学
108. 阪井敏郎 親と子の人間社会学 京都 法律文化社 1973  
大阪女子大——家族社会学
109. 阪本徹郎 情報検索 東京 雄山閣 1976 (日本図書館学講座9)  
慶大——情報検索論(1)
110. 佐藤 仁 図書館施設の建築計画に関する研究 著者私刊 1967  
別府大——図書館の施設と設備
111. 沢田昭夫 論文の書き方 東京 講談社 1977 (講談社学術文庫153)  
東洋大——図書館学概論
112. 専門図書館協議会情報管理研究委員会編 資料室活動は如何にあるべきか 一情報環境・資料室・ネットワークの類型的研究一 東京 専門図書館協議会 1975 (専門図書館協議会研究報告第1)  
慶大——情報システム経営
113. Sheehy, Eugene P. *Guide to Reference Books*, 9th ed. Chicago, American Library Association, 1976.  
慶大——参考調査資料  
東大——参考調査資料
114. Shera, Jesse Hank. *Introduction to Library Science*. Littleton, Colorado, Libraries Unlimited, 1976.  
慶大——原典講読
115. 椎名六郎 新図書館学概論 東京 学芸図書 1973  
梅光女学院大——図書館通論  
別府大——図書館概論  
国士館大——図書館学概論  
桃山学院大——図書館学原論  
静岡女子大——図書館通論
116. 塩見 昇編 図書館活動論 東京 白石書店 1978 (予定) (図書館学教育資料集成第3巻)  
桃山学院大——図書館奉仕論
117. 塩見 昇 間崎ルリ子 学校図書館と児童図書館 東京 雄山閣 1976 (日本図書館学講座5)  
大阪教育大——学校図書館学
118. Stuart, Robert D. and Eastlick, John H. *Library Management*. Littleton, Colorado,

## Libraries Unlimited, 1977

- 慶大——情報システム経営
119. 高田克太郎ほか 図書館資料論 高田克太郎 中嶋正夫 吉澤輝夫共著 東京 教育出版センター 1976 (講座新図書館学2)
- 純真女子短大——図書館資料論
- 桃山学院大——資料論(2)
- 帝塚山短大——資料論
120. 高宮 普編 体系経営学事典 東京 ダイアモンド社 1970
- 慶大——情報システム経営
121. 武田虎之助編 図書館学学習の手引 東京 日本図書館協会 1973 (図書館の仕事24)
- 法政大——図書館通論
- 相模女子大——図書館学概説
122. Thornton, John Leonard ライブラリアンシップ史 (*The Chronology of Librarianship, an Introduction to the History of Libraries and Book-Collecting*) 三輪昌伸訳 東京 学芸出版 1973
- 園田学園女子大——図書及図書館史
123. 友野玲子編 児童図書館運営法 (タイプ印刷)
- 共立女子大——青少年の読書と資料
124. 図書館教育研究会 学校図書館通論 新版 東京 学芸図書 1972
- 広島文教女子大——学校図書館通論
- 広島大——学校図書館学Ⅰ
- 今治明德短大——学校図書館通論
- 純真女子短大——学校図書館通論
- 国士館大——学校図書館
- 共立女子大——学校図書館
- 新潟大——図書館学通論
- 四天王女子短大——学校図書館通論
- 市邨学園短大——学校図書館の利用指導
- 橘女子大——学校図書館の利用指導
- 橘女子大——学校図書館通論
- 図書館短大——学校図書館運営法
- 和洋女子大——学校図書館の利用指導
- 和洋女子大——学校図書館通論
- 山梨英和短大——学校図書館通論
125. U. S. Bureau of Research. Educational Resources Information Center. *Thesaurus of ERIC Descriptors*. 2d. ed. 1969
- 明石短大——情報管理
126. 占部都美 近代経営学 新版 東京 白桃書房 1959
- 明石短大——図書館通論
127. 占部都美 近代経営管理論 東京 ダイアモンド社 1961
- 明石短大——図書館通論
128. 確井正久編 社会教育 東京 第一法規出版 1970 (教育学叢書16)
- 安城学園女子短大——社会教育
- 東大——社会教育学概論
129. 確井正久編 社会教育 東京 東京大学出版会 1971 (戦後日本の教育改革10)
- 安城学園女子短大——社会教育
- 独協大——図書館活動と社会教育
130. 涌田宏昭編 経営情報論 東京 有斐閣 1975 (有斐閣叢書)
- 北海学園大——情報管理
131. Walford, Albert J. ed. *Guide to Reference Material*, v. 1, Science and Technology, 3rd ed. New York, Bowker, 1973
- 東大——参考調査資料論
132. 渡辺正亥 学校図書館概説 東京 学芸図書 1975
- 大東文化大——図書館学講座
133. 渡辺正亥 図書館通論 その学習案内 改訂版 池上書店 1977
- 大東文化大——図書館学講座
134. White, Carl Milton. *Sources of Information in Social Sciences: A Guide to the Literature*, by Carl M. White and Associates. Chicago, American Library Association, 1973.
- 慶大——資料論Ⅰ
- 慶大——資料論Ⅲ
135. Wynar, Bohdan S. *Introduction to Cataloging and Classification*, 5th ed. Littleton, Colorado, Libraries Unlimited, 1976
- 慶大——資料組織概説
136. 山岸徳平 書誌学序説 東京 岩波書店
- 梅光女学院大——人文・社会科学の書誌解題
137. 山岸徳平 書誌学のはなし (岩波書店刊「日本古典文学大系」月報から編輯した自家製資料)
- 日大——図書館学Ⅳ 書誌学
138. 山下栄編 件名目録の実際 東京 日本図書館協

- 会 1973 (図書館の仕事12)  
茨城大——学校図書館
139. 山下 栄 資料分類法講義要項 改訂版 1975  
〔自刊〕  
武庫川女子大——資料分類法  
武庫川女子大——資料分類法演習  
武庫川女子短大——資料分類法  
武庫川女子短大——資料分類法演習
140. 山下 栄 資料目録法の理論と実際, 講義要項  
修正版 1975 〔自刊〕  
武庫川女子大——資料目録法  
武庫川女子大——資料目録法演習  
武庫川女子短大——資料目録法  
武庫川女子短大——資料目録法演習
141. 山下 栄 図書の整理法 司書教諭用一講義要項  
改訂3版 1975 〔自刊〕  
武庫川女子大——図書の整理  
武庫川女子短大——図書の整理
142. 弥吉光長 参考図書 —その原理から利用まで—  
東京 理想社 1974  
国学院大——参考業務  
国学院大——参考業務演習  
国学院大栃木短大——参考業務  
国学院大栃木短大——参考業務演習
143. 弥吉光長 図書の選択 東京 日本図書館協会  
1967 (図書館の仕事6)  
独協大——図書館資料論  
四国女子短大——図書館資料論  
東洋大——図書館資料論
144. 吉澤 潤 社会教育概論 国土社  
日大——社会教育論  
学習院大——哲学科演習Ⅱ
145. 湯浅光朝編 自然科学の名著 東京 毎日新聞社  
1971  
松蔭女子学院大——自然科学と技術の書誌解題
146. 全国学校図書館協議会 図書館学演習資料 前編  
・後編 新訂3版 全国学校図書館協議会 1978  
秋田大——図書の整理  
跡見学園女子大——資料目録法  
跡見学園女子大——資料目録法演習  
広島大——学校図書館学Ⅱ  
茨城大——学校図書館学
- 今治明德短大——参考業務  
今治明德短大——資料分類法  
今治明德短大——資料目録法  
実践女子大——図書館学講座  
金蘭短大——資料分類法  
金蘭短大——資料目録法  
光華女子大——図書館学  
国学院大——学校図書館通論  
国学院大——資料分類法  
国学院大——資料分類演習  
国学院大——資料目録法Ⅰ  
国学院大——資料目録法演習  
甲南大——参考業務演習  
甲南大——資料組織法  
甲南大——資料組織法演習  
熊本短大——図書館通論  
共立女子大——資料組織論Ⅱ (分類法)  
日大——図書館学Ⅰ 図書館概論  
日大——図書館学Ⅱ 図書整理法  
大阪城南女子短大——参考業務  
大阪城南女子短大——参考業務演習  
大阪樟蔭女子大——資料目録法  
大阪樟蔭女子大——資料目録法演習  
大谷女子大——資料分類法  
大谷女子大——資料目録法  
四国女子短大——資料分類法  
四国女子短大——資料分類法演習  
四国女子短大——資料目録法  
四国女子短大——資料目録法演習  
常葉女子短大——資料目録法演習  
東横学園女子短大——資料分類法  
東横学園女子短大——資料目録法  
宇部短大——資料分類法  
宇部短大——資料分類法演習  
宇部短大——図書館活動  
宇部短大——図書館通論  
山形県立米沢女子短大——資料目録法  
山形県立米沢女子短大——資料目録法演習
147. Ziskind, Sylvia, and Hede, Agnes Ann. *Reference Readiness: A Manual for Librarians and Students*, Hamden, Conn., Linnet Books, 1977  
東大——参考調査法